

新除草・調節剤

ハタロン水和剤

PCP・Linuron 除草剤

(取扱メーカー)丸和物産株式会社

対象作物：陸稲・小豆

性状・作用特性：本剤は、H-337の試験名で試験が実施されてきた除草剤で、その主成分としてLinuron〔3-(3,4-ジクロルフェニル)-1-メトキシ-1-メチル尿素：商品名 デュボンロックス〕5%とPCP(ペンタクロルフェノール・ナトリウム水化物)73%を含む混合水和剤である。

本剤の主成分であるLinuron, PCPはいずれも単剤で畑作除草剤として広く使用されているが、両剤を混合することにより、雑草に対する適用性を拡大したものである。雑草に対しては、一年生のイネ科・広葉に非選択的に作用し、効果の発現は速効的かつ持続期間も長い。土壤中の移行は小さく、作物の根への影響は殆んどない。

使用方法：小豆・陸稲の播種後～発芽前に10アール当り、小豆750～1,000g、陸稲1,000～1,500gを加圧噴霧機で土壤全面に均一に散布する。

使用上の注意：土に充分湿り気のある時や降雨前後をねらって散布する。また、砂地で水はけのよい畑では使用しない。

本剤の魚貝類に対する毒性はかなり高いので、使用にあたってはPCPに準ずること。

ダクタール水和剤

TCTP 除草剤

(取扱メーカー)室町化成株式会社

対象作物：シバ・大豆・トウモロコシ・陸稲

性状・作用特性：本剤は、ジメチル-2,3,5,6-テトラクロルテレフタレート75%含む類白色の水和剤である。本剤は、ダイヤモンドシャムロック社で開発され、既にアメリカでは広く普及しているものであり、一年生イネ科雑草および数種の広葉雑草に効果の高い発芽前土壌処理剤である。土壌移行も少なく、残効性のある安定した化合物である。

毒性は急性経口毒性LD50=3,160mg/Kg(シロネズミ)、魚毒性はLD50=100ppmで実用上問題がない。

使用方法：完成した芝生では、雑草の発芽前に10a当り2,000g(標準)を300ℓの水にうすめて均一に散布する。使用時期は、メヒシバに対しては春3月に、スズメノカタビラには秋9月と前後2回でよい。

大豆およびトウモロコシには、播種直後に10a当り400～550gを100ℓの水にうすめて均一に散布する。

使用上の注意：本剤は、その性質上雑草の発芽後では効果が劣るので、必ず雑草の発芽前に処理することが必要。また、土壌の乾燥している場合は水量を多くし、砂質土壌では薬量を多少減量することが必要である。